

# 教育現場からの報告

## COVID-19のなかで

WESI



## 幼稚園から

石橋 エリ

幼稚園主事

幼稚園は5月の緊急事態宣言解除後に保育を再開しましたが、これまで通りに園内の一つ

の所に集まり礼拝をすることは困難な状況でした。保育の中心である礼拝を子ども達と共にささげることができない日が来るとは思ってもみないことでした。子ども達が通う教会学校もお休みとなったままのところが多かったです。

しかしやがて子どもたちは幼稚園で集まりをする際には隣の人と距離を取って座るなど、互いを守るために必要な行動を自ら取るようになります。幼稚園での礼拝は、手

話賛美などの新しい形を考えながら、再び守ることができるようになりました。そしてこの間も保育者は、毎朝の保育前の礼拝とそれぞれの教会での主の日の礼拝をささげることが大切にし続けました。

この困難な状況の中で幸いであったことは、主イエスキリストの父なる神さまに「神さまどうしたら良いのですか?」「助けてください!」と礼拝や祈りを通して、問いかけることや助けを求めることが私達に許されていたことでした。

神さまへの問いかけの答えは私達の思うような形では返って来ません。それでもなお、私達の創り主である唯一の神さまにのみ光を見て、今後子ども達との園生活を工夫しつつ進めていきたいと願います。



## 万事が益となるように働かれる神さま

小澤 淳一

初等部宗教主任

新型コロナウイルスの感染が拡大する中、キリスト教学校の根幹である礼拝も

今までと同じように礼拝堂に集まって讃美をし、祈り、御言葉を聴くということができなくなりました。礼拝は、オンライン礼拝になり、モニター越しに礼拝をささげることになりました。礼拝をささげるといことはどういうことか、改めて問われているようにも思いました。

ある時、インターネットに掲載されていた漫画で神さまとサタンの対話というものがありました。地球を目の前にして神さまに向かってサタンが「コロナウイルスを使ってあなたの

教会を閉鎖した」と自慢げに言います。すると、神さまは「それどころか、私はコロナ禍によって、すべての家庭に教会(祈りの場)を開いてきたところだ」と答えたというもの。

私たちは新型コロナによってできなくなったことにしか目を向けていないことに気づかされます。そうではなくて、神さまは、すべてを用いてよいもので満たしてくださる、私たちに悪いようにはなさらないのです。ちょうど、「嵐を静める」テキストで、「なぜ怖がるのか、まだ信じないのか」と言われた主イエスの言葉を思い起こします。

何が神さまに喜ばれることかを祈り考え、この状況だからこそできることにチャレンジしていきたいものです。